

## 懇談会（昨年）出席者最多に

### 北海道水産物荷主協会

#### 団体総会

【札幌】北海道の水産

物出荷業者で組織する

北海道水産物荷主協会

（宮崎征伯会長）は14

日、定時総会を開き、平

成28年（1～12月）業務

報告、29年事業計画、收

支予算案などを承認可決

した。

会員数（正会員、特別

会員、賛助会員）は昨年

末時点で274と、前年

末に比べ5の減少。業務

報告の中で、同会が消費

地の卸や商社などを集め

て開いている年4回の

塚水産（余市町）の糠塚

24日（水）、札幌市▽全国

「取引懇談会」の昨年の出席者が、過去最多（893人）に上ったことが報告された。

今年の事業は全体取引懇談会（3月14日に開催）

のほか、ホタテ、サンマ・イカ、サケ・マス・魚卵の魚種別取引懇談会を

それぞれ開催する。PL

会員数増加に伴い、同地

区の理事数を1人増加

（合計3人）し、新たに

（佐藤海産（別海町）の伊勢

田の内田勝規会長は、14

日に札幌市で開かれた

「全国水産物大手荷受・

荷主取引懇談会」（北海道

水産物荷主協会主催）で

講演し、物産展での経験

や事例をもとに「売れる

地域產品」の開発について

説明した。（1面参照）



宮崎会長

### 地域の魅力を商品に

「カリスマ」内田氏が講演



内田氏は  
売れる北海

道産品の特徴は、「北

これから売れるものの  
キーワードとしては「和」  
や「健康性」などを列挙、  
商品開発には一定の「ゆ

どり」が必要とも述べ、  
諦めずにチャレンジし続

けることを推奨した。

サンマ・イカ等鮮魚大手 7月5日（水）、釧路市▽手荷受・荷主取引懇談会  
荷受・荷主取引懇談会▽全国サケ・マス・魚卵大▽8月2日（水）、札幌市

「海道らしさ」や、「白い」  
「柔らかい」など「北海

道のイメージ

を備えた  
ものと指摘。外部から見  
える地域の魅力は地域内  
では見えにくいとし、地

域の魅力をいかに見極  
め、商品に反映させるか

が重要とした。販売や宣  
伝では「季節限定」「期間

限定」「ここでしか買えな  
い」などの触れ込みによ  
り、商品の付加価値を創  
出することが必要と説い

た。

環境打破へ結束誓う

全国水産物大手荷受・荷主取引懇談会

## 生産、流通関係 210 人が一堂に

（相馬）（宮崎征伯会長）荷主協会（宮崎征伯会長）主催の「第33回全国水産物大手荷受・荷主取引懇談会」が14日、札幌市のロイド茶幌で開かれた。道内の加工業者、漁業者、商社関係者ら約210人が出席。道産水産物の生産水準が低下する中、一層の連携、消費地の卸、商社団体を図つていくことを確認した。官商会議は冒頭、作手

の道内漁業生産量が史上最高の87万㌧（道集計速報値）に落ち込んだことに言及。「水揚げが減った中でどう企業を築いていくか。みんなで知恵を絞ってやっていかなければ、来賓の北海道漁連の川崎一好会長は、「昨年の減少が流通、加工業界に大きな影響を及ぼしたとの認識を示したうえで、「北海道の漁業は漁業者の生産だけでは成り立たな



道内の出荷者、全国の卸、商社関係者が一堂に会して開かれた

沙川・堺・萬葉の研究会議(第1回)で、  
説明。「いまだに」結論は「出でてい  
ない」としつつ、「土壤汚染対策等」  
の専門家会議(第5回)で、当面は、  
19日に行われる専門家会議(第5回)  
の内容が「焦点となる」ことを示唆。  
「私のもとにしてはいろいろな意見、數値  
を示唆。」  
データが出揃うこの段階では、  
中には、(東京都の小池百合子)  
「百合子知事に」見解を出  
してほしいと強く要望して  
いることでも明かす。  
「早期に市場をつくらうとする  
か答えるを出でてほしい。」  
それに基づいてわれわれの  
活動方針を決めていか  
かなければならぬ。

## 豊洲市場問題で 伊藤会長が説明

伊藤会長  
あいさつする  
と、迅速な意  
思決定を求め  
た。  
懇談会にけ  
ど、このあと、  
オフィス内田  
の内田櫻規会  
長による「売れる地域商  
品」にもとづかれるもの」と題した講演が行われ  
た。(2面に隣連記事)

「流通業界でもやむを得ず、な問題があつたから、われはおはせさんと一緒に、国や道に勧き掛けながら、しつかりとした漁業、水産業が広がる、われる北海道の漁業を、つくっていかたい」と、難局打破に向け、協調して取り組んでいく考え方を表明した。



取引懇談会のようす



宮崎征伯会長

【札幌】北海道水産物荷主協会（宮崎征伯会長）は14日、第53回全国水産物大手荷受・荷主取引懇談会を開催した。会員スーカー・漁業特別会員の全国消費地卸・商社など幹部、来賓含め約200人が出席した。

昨年の道漁業生産量は14%減の36万5,000トン。現在の統計を取り始めた1995年以降初めて100万トン割れの凶漁だった。宮崎会長は、「水揚げが減った中でどうやって企業を存続していくか、みんなで知恵を絞っていかなくてはならない」と連携を呼びかけた。

# 「企業存続へ」危機感共有 取引懇談会開催で連携訴え

道  
荷  
主  
協  
取  
引  
懇

た。  
懇談会は、東武百貨店の元バイヤー・内田勝規氏による「売れる地域産

品に求められるもの」と

題した講演があり、見識を深めた。

取引懇日程など承認  
ホタテは5月24日

## 団体総会

今後の日程は、ホタテ

取引懇5月24日（開催地

・札幌市）▽サンマ・イ

カ等鮮魚取引懇7月5日

（釧路市）▽サケマス・

魚卵取引懇8月2日（札

幌市）。

また新たに選任された

理事は次の通り。（敬称

略、企業名、地区名）

今年度事業では例年同

様に全國卸や商社など

小樽・余市・古平地区

▽伊勢撒（佐藤海産社長、

別海・標津・羅臼地区）

また来賓を代表してあ  
いさつした中央魚類の伊  
藤裕会長は、迷走する  
豊洲移転問題について  
「泥仕合をやっている場

合ではない。今日開かれ

る専門家会議の報告をも  
つて地下水問題に関する  
一定のデータがそろう。  
小池百合子知事は一定の  
見解を出してほしい」と  
述べた。この他、来賓は  
「道内出荷者・加工ス  
ーカーが一堂に会する取

引懇談会を開催する。